

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501248		
法人名	特定医療法人社団千寿会		
事業所名	高齢者グループホームプラタナス三愛		
所在地	登別市中登別町141番地1		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173501248-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和5年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本理念をもとに一人ひとりの価値観、生活歴やこだわりを大事にケアに繋げて実施しています。また、入居者のやり遂げたいことは何かを本人の行動や聞くことを大切にし対応を行っています。ホーム周辺は自然がたくさんあり春夏秋冬、四季折々の景色を楽しめることができ、開放感があり明るい事業所となっています。又、母体が病院であることを活かし、医療との連携を密にしながら健康面からも生活を支えていけるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのJR駅から車で5分程、バス停からは至近距離にある丘陵地帯に位置しています。ベランダからも四季の移ろいが目の当たりにでき、また、野生動物も見られるなど自然環境に恵まれています。運営母体は多様な福祉事業を展開しており、医療、看護等でバックアップが得られています。自由な外出や面会に制約ある中でも、ドライブで馴染みの場所を訪れたり、室内レクを充実させて不足な状況を補い、利用者からは「ここは楽しくていいよね」の言葉が寄せられています。事故やヒヤリハットが生じた時は再発防止策を講じ、ケアプランに反映させるなど常に改善に向けた取り組みを行っています。職員は現在出来る事を模索し、利用者が穏やかに過ごせる環境作りにも努めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき実践はしていると思うが、個人差もあるため勉強と経験が必要と感じる	事業所理念と職員が作り上げた各ユニット理念を掲げ実践に努めています。管理者は、職員自身がケアを振り返り、理念に沿っているのかを確認する機会を検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設周辺を散歩し庭の花壇を見せて頂いたりなどしている。以前は町内会のお祭りに参加したが、町内会衰退により交流は少ない。コロナ禍により市や地域の行事への参加は行えていないのが現状	町内活動もない状況ですが、利用者の散歩時に住民の方と話を交わしたり、庭の花々を見せてもらっています。実習生の受け入れや介護相談には快く応じています。地域や事業所の情報は運営推進会議録で相互に得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議にて報告や話し合いを行っていたが、現在コロナ禍により行えていないのが現状		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナ禍により集合する会議は行えていないが、電話にて情報共有を行っている	会議は書面とし、年6回の内3回は系列の事業所と合同で開催しています。利用者状況等を推進委員に電話で報告し、聞き取った情報等を加えて議事録を作成しています。今後に向け、家族の参加拡大を課題としています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や小規模多機能の管理者が市町村担当者と連絡を取り、相談や確認など行っている	法人職員と管理者が案件により各担当者と関わりを持ち、運営の向上や利用者の安定した生活に繋げています。行政職員とは開設時から良好な関係を保っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の都合で施錠を行っている 身体拘束しないケアについて、日頃から実践し具体的な行為や緊急時やむを得ない場合は条件を確認し、必ずご家族に状況を説明し記録を残すよう努めています	理念でも利用者の穏やかで充実した暮らしへの支援を謳っており、職員は実践に努めています。身体拘束等適正化に向け、指針に沿った委員会や研修会を適宜開催し、正しい理解に繋げています。	マニュアルを整え、センサー使用時は家族に同意を得るなど適切なケアに努めていますが、指針や委員会、研修会の書式を整備することで職員がすぐに閲覧でき、さらなる理解に繋がる取り組みに期待します、
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の仕事の中で、虐待になり得るケアは何かを考え取り組んでいるが、やはり個人差もあるため勉強会を開催し学ぶ機会をつくってきたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、コロナ禍の影響もあり講習会への参加が行えていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者、ご家族へ説明を行い理解を得ている。身体状況に変化があった際は、ご家族に連絡し対応など相談するなど理解を得られるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在面会に制限はあるが、日頃の様子など電話連絡し相談を行っている 又、月1回の家族通信にコメントさせていただいている	家族の要望は、利用料支払いや物品持参時のほか電話で聞いており、職員間で改善に向けて協議しています。家族には毎月、担当者による個別のコメントと写真も掲載している事業所便りで日常を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ個々に判断し支援を行える場面もあるが、迷ったり、困った時は管理者に相談出来る環境に努めている	法人職員は折にふれ事業所を訪れており、管理者と実情を共有し、職場環境の整備に努めています。職員は居室担当や各業務で力量を発揮するなど、運営の一端を担っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採用し、個人目標を設定し取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのスキルに合わせた研修への参加を促しているが、コロナ禍であるため中々外部の研修に参加できていないのが現状		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	月1回関連事業所と事故防止委員会を開催し意見交換は行っている以外は、コロナ禍により交流は少ない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に情報収集を行い、ご本人やご家族の要望など確認していくことで入居後も安心できる関係を築けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談の時に可能な限り要望やどのように生活して欲しいかなど伺っている 入居後はご家族に電話連絡し状況を伝えるなど関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に暫定のプランを作成 その後の様子を見極めながらプランを作成を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護中心ではなく、生活全般が入居者中心の生活であり、共に生活している関係性を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の場がグループホームになり、スタッフが一方的なケアにならないよう、ご家族に電話で相談しご本人を支援するご家族として関われるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数人ではあるが入居前からのかかりつけ医に受診を行っている。以前は馴染みの美容院などへ行っていたがコロナ禍により外出は出来ない	ドライブで桜や紅葉を車窓から眺めるなど、馴染みの場所を巡っています。電話や手紙の取り次ぎを行い、大切な方々との関係性を重んじています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のそれぞれの関係性を理解し、スタッフはあまり介入はせず見守り、状況を見極め対応を行っている。入居者同士の助け合いなども見られ、孤立しないよう心掛けレクリエーションなど関りがもてるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他施設や病院に連絡し経過を確認し、状況に応じ情報提供を行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の入居者同士の会話や行動、スタッフとのコミュニケーションの中で希望など把握し、ミーティング内で話し合い検討できるように努めている	利用者の思いは、家族の情報も参考に生活面で汲み取っていますが、時には職員主導となる状況もあり課題としています。要望の実現に向けケアプランの支援目標として掲げるなど、出来る限り叶えられるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族、担当ケアマネから生活歴、既往歴、趣味などの情報収集を行い、入居後も必要に応じ連絡を取り合い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や行動、体調の観察など行いちょっとした変化を見逃さず、申し送りや記録を行い情報共有出来るように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中での気づきをミーティングに持ち寄り、ご本人の課題として検討が必要な時はカンファレンスを実施。現状に即した支援を提供できるよう介護計画を作成している	ケアプランの定期見直しや体調変化時は、関わりから得た利用者や家族の意向を踏まえ、全職員による評価や課題を分析して作成しています。介護記録で支援目標の実践が確認できます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの内容、途中で気づいた事を都度話し合い、中間評価、最終評価を行い次回のケアプランに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍であり外部との関わりに制限はあるが、顔そりを希望する方には、訪問理容を手配しパーマ希望の方には業者と相談しスタッフが洗髪するなど対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、訪問理美容を月1回地域資源として活用している以外は、コロナ禍により以前と比べ少ないのが現状		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の確認を行い、ご本人やご家族の希望があれば継続し受診を行っている 又、母体が三愛病院なので何かあれば相談できる体制である	受診先は利用者や家族の意向を尊重しています。協力医療機関への定期外来受診や専門医の受診は、家族と連携して支援しています。訪問看護師による週1度の健康チェックも行われ、早期の受診に繋げています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が三愛病院のため24時間体制で、何かあれば相談できるよう連携を図っている 週1回訪問看護師と連携し受診の必要性や医師への上申の助言を受け適切に受診など受けられるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時は医師や看護師などと情報提供を行い、医師や看護師、関係者と連携し早期に対応できる関係づくりに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に重度化した場合について説明を行っている。早い段階で主治医に身体状況を伝え、今後の方針を相談し、事業所でできることは何かなどご家族へ相談出来るよう努めている	重度化や終末期に対する方針は、指針で出来ること出来ないことを説明し、同意を得ています。訪問医師が確保できず、ぎりぎりまで支援を行っていますが、これまでは最期の生活拠点は母体の関連機関となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、AEDの設置など準備はおこなっている。又、病院での救命救急の研修に参加していたが、コロナ禍で研修への参加や訓練が行えていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を年2回実施。法人との協力体制を整えている。災害時に必要な備蓄や食料品など備えている	年1回は消防署の指導を受けながら、日中・夜間の火災や地震想定避難訓練を行い、表出された課題は次回の訓練に生かしています。業務日誌には1日4回の火気点検の欄が設けられ、安全を確認しています。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けについては日々のケアの中で命令口調の対応が目立っているため、ミーティングの時に再確認、見直しするように努めている	利用者への尊厳尊重を基本としていますが、時には不適切な言葉遣いになることもあり、管理者は注意喚起を促しています。呼称は、利用者や家族の意向に沿っています。伝達時は固有名詞を使わず、個人記録も適切に取り扱っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意見を否定せず、同じ気持ちになって考えてみる。その際に必要かどうか判断し、必要であればスタッフが間に入り、ご本人と一緒にその場にあった支援内容を考え対応を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	外出の希望などコロナ禍により感染予防対策で行えていない 就寝時間や起床時間、日中の過ごし方などご本人のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服などご本人の希望を伺いながら、身だしなみやおしゃれに気持ちが向くように支援している。行事やご本人の誕生会の際は化粧をするなどしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切って、炒めて、盛り付け、片づけるまで入居者中心となり個々の出来る事を行っている。献立も一緒に考え取り入れている	献立は利用者の好みに応じユニットそれぞれに立案しています。行事食は利用者と一緒にちらし寿司を作ったり、誕生日には利用者の要望に応じています。畑の採れたて野菜の活用したり、出前や持ち帰り、バイキング等を取り入れバラエティーに富んだ内容になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量はチェックシートを活用し確認を行いながら支援している 食事も常食、刻み食、ペースト状など個々の状態に合わせた形態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。母体法人内に口腔外科があるため、義歯の調整や定期的に歯科受診を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている ご本人の排泄のタイミングに応じ声掛けや誘導を行い失敗を減らせるよう支援を行っている	職員は利用者の排泄の間隔を捉えており、自立でトイレに向かう利用者の見守り、声かけ誘導を行い、夜間のみベッド上の支援もありますが、トイレでの排泄を基本としています。職員の努力により衛生用品の利用から布下着になった事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取状況、排便状態を把握し、乳製品やオリゴ糖など自然排便に繋がるよう取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個人の希望やタイミングに合わせて入浴を行っている 同性介助や洗髪方法の工夫、入浴の手順等に配慮した支援を行っている	自力で入浴する利用者にも背中を流すなど、出来ない部分を補っています。意向によるシャワー浴では足湯をし、上がるときに湯船からのかけ湯で冷え対策を行っています。洗髪が苦手な利用者には、シャンプーハットに後ろ向きで洗うなど対応を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを考慮し、夜間安眠に繋がるよう日中の活動を行うなど行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックシート、マニュアルを作成し、チェック機能を活用し服薬ミスの防止に努めている 変更があれば申し送りやチェックシートへ記入し確認出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、後片付けなど一緒に行っている 入居者の得意、不得意もあるためそれらを踏まえた役割を考え行っている 又、感染症予防に配慮した方法で行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期受診の時に売店へ行き、買い物をする方もいる。以前までは外食も行っていたが、コロナの影響で行えていない それでも、季節を感じて頂きたく車内から紅葉や桜を見に出掛けるなど工夫を行っている	暖かい日は、常に中庭やテラス・ベンチでお茶を飲みながら日光浴や周辺の散歩で外気に触れています。ドライブで馴染みの場所に出かけ、車窓から桜並木や海を眺めており、息抜きの機会となっています。外来受診は家族と会えたり売店で買い物かできています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと管理者が預かっている 金銭管理が可能の方は自己及び家族の責任のもと、ご本人所持していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があれば、ご家族や知人に電話をかけて頂いたり、かかってきたら取り次いでいる。又、手紙や写真を郵送して下さるご家族もおり、ご本人にお渡ししている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂には中庭が見渡せる吹き出し窓があり、四季の変化を見ることが出来る。リビング内も季節に合った装飾を行い、季節を感じて頂けるよう工夫している	事業所全体がゆったりとした造りになっています。ひな人形やレク活動で桜をモチーフにした作品や花を飾り、温かな雰囲気になっています。利用者は心地良い生活環境の中で居場所を見つけ、自分のペースで過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やテラスにベンチを設置し、独りで過ごしたり気の合う方とお話ができる空間を用意している。リビングやソファの位置も入居者同士の関係性に配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物、使い慣れている物を持って来ていただけるよう説明している。家具の配置などもご本人と相談し、使いやすいうように工夫している	8.5畳ある居室にはベッドやクローゼット、テレビ、床頭台が用意されています。利用者は出窓に趣味の物を置いたり、衣裳ケースや絵本、マスコット、家族写真、裁縫セット等を持ち込み、安らげる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットやテレビなどは施設で用意。その他個々の能力や状態に応じ車椅子や歩行器を使用しているご家族やスタッフと相談し、自分で出来るような支援に努めている		